

最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 12202101

性能分野	環境・省エネルギー性能
大分類	日射遮蔽性の向上
中分類	開口部の日射遮蔽性の向上 / サッシの日射遮蔽性の向上
技術の名称	庇・ルーバー等の設置
改修技術の概要	<p>【改修工事の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開口部の日射遮蔽が講じられていない場合、夏期および中間期において、建物室内の温度上昇をまねき快適性が損なわれるほか、冷房エネルギーの大幅な増加の要因となる。 サッシおよびガラスに遮蔽性能の高いものを使う技術や、屋根・霧除け庇・ルーバーなどを利用して開口部から侵入する日射をさえぎる技術などがある。 窓際の日射による輻射熱（温熱）の低減、冷房エネルギーの低減に効果がある。 緑のカーテンなど緑化による日射遮蔽も有効。 <p>【各工法の特徴】</p> <p>庇等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> 庇の無い窓に新たに庇を設置する。 庇を設置する方位と出寸法によって夏期の日射遮蔽効果は変化する。方位に応じて適正に計画することが重要。 太陽高度が低い時間帯で受照面となる、東および西面では効果が期待できない。南面の開口部では太陽高度が高くなるため庇等の効果は期待できる。 冬期においては、太陽高度が低くなるため、日射取得量が庇によって大きく損なわれることはない。 <p>外付けルーバー等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> 開口部の外部にルーバーやブラインドを設置し日射を遮蔽する。 外付けルーバーは通風を確保しながら日射をさえぎることができ、外付けブラインドは、角度を調整することで室内へ光を導き、昼光利用の観点からも省エネが図れる。 庇と異なり全方位にわたって効果が期待できる。 外付ルーバー、外付ブラインドなどの開口部の日射遮蔽部材には外付けと内付け部材があるが、外付け部材に比べて内付けの部材では、窓を透過して日射遮蔽部材の表面にあたる熱のほとんどは室内で放熱されるため、あまり効果的ではない。 <p>【適用事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 軽量で設置が容易なアルミ庇などが販売されている。 共同住宅に外付ブラインドを施工した事例  <p>< 出典：「自立循環型住宅への設計ガイドライン」 (一財) 建築環境・省エネルギー機構 ></p>  <p>< 出典：東邦レオ(株) ></p>  <p>< 出典：「自立循環型住宅への設計ガイドライン」 (一財) 建築環境・省エネルギー機構 ></p>  <p>< 出典：東邦レオ(株) ></p>  <p>< 出典：(株)共和 ></p>

